

京都教区時報

カトリック京都司教区
広報委員会

京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>

2026年 司教年頭書簡を受けて



©Vatican Media

第10回 希望の橋を架ける教会

大塚司教の年頭書簡の10「希望の橋を架ける教会」を読み、京都教区での私自身の司牧を振り返りました。この書簡を通して、希望の橋を架けるとは、違いをなくすることではなく、人々が出会い、互いに耳を傾け、賜物を分かち合い、ともに歩むための場をつくることだと感じました。

特に、子どもたちや青年との活動を通して、その大切さを実感しています。毎週の集まりでは、学び、遊び、祈り、ともに時間を過ごします。そこは単なる活動の場ではなく、友情を育み、協力することを学び、自分も教会の大切な一員であると感じる場となっています。

また、日本人の信徒が外国にルーツを持つ子どもたちに日本語や漢字を教える一方、外国人の信徒も自分の言葉や文化、経験、賜物を分かち合っています。ここから、橋を架けることは一方的に助けることではなく、互いに与え、受け取る歩みであると学びました。

国際交流のお茶会、子どものミサ、さまざまな教会活動も、異なる背景を持つ人々が出会い、関係を築く大切な機会となっています。また、教会に来ることが難しい信徒を訪問する中で、訪ね、話を聴き、ともに時間を過ごすことだけでも、その人が今も教会の大切な一員であることを伝えられると感じました。

司祭同士が連絡を取り合い、支え合い、責任を分かち合うことも、ともに歩む大切な姿だと学びました。

これらの経験を通して、私は、いつも自分が橋を架けなければならぬと思っていました。人々が出会い、お互いの賜物を認め、ともに橋を架けられる場をつくることも司祭の務めだと学びました。

人々に近づき、耳を傾け、学び、ともに歩む司祭でありたいと思います。

希望の橋を架ける教会とは、近づき、耳を傾け、受け入れ、分かち合う教会であると、より深く感じました。希望は、一人がもう一人に向かって一歩を踏み出すことから始まります。その一歩をとるに踏み出すとき、私たちの違いは、橋を架ける場所となるのだと思います。

三重南部ブロック担当司祭
フイリピン宣教会 メディナ・ブルース



初聖体を受けた子どもたち。毎週の集まりの大切な実りです。子どもたちは、ともに学び、祈り、遊びながら、信仰のうちに成長しています。(中央・筆者 2026. 9. 27 松阪教会にて)

11
2026



京都教区90年、そのはじまり

— 祈りと決断、戦争の中で受け継がれた信仰 —

京都司教 十パウロ大塚喜直

第3回「仏教のローマ」京都 — 明治の再宣教とヴィリオン神父の足跡 —

古都に福音を伝える

第2回では、日本の教会とメリノール宣教会の願いが結ばれ、京都・滋賀への宣教の道が開かれました。

京都は千年以上にわたって都として栄え、日本の宗教文化が育まれた町です。明治初期には、東西本願寺や知恩院など諸宗派の本山と寺院が集まり、仏教文化は学問、教育、芸術、年中行事を通して、暮らしに根づいていました。ローマがカトリック教会の中心であるように、京都は日本仏教の歴史的・精神的中心でした。メリノール宣教会が京都を「仏教のローマ」と呼んだのは、このためです。ここでの宣教は、大きな覚悟を要する使命でした。

ザビエルが都に託した願い

1551年1月、聖フランシスコ・ザビエル (Francisco de Xavier, 1506-1552) は、天皇や将軍から宣教の許可を得ようと京都を訪れました。しかし、戦乱で荒廃した都で会見を果たせず、11日ほどで京都を後にしました。それでも、その志は後の宣教師たちに受け継がれました。



織物「南蛮寺扇面図」 狩野宗秀 原画
 望洋庵聖堂 (写真は『道が京都から』より)

1576年、中京区姥柳町^{うばやなぎちょう}付近に、「被昇天の聖母」にささげられた「都の南蛮寺」が建てられました。当時、教会は「南蛮寺」や「だいうす寺」と呼ばれました。「だいうす」はポルトガル語の *Deus*、「神」のことです。禁教後も跡地は「だいうす町」または「だいうすの辻子」と呼ばれ、古絵図や地誌に名を残しました。

1587年、豊臣秀吉がバテレン追放令を発布すると、都の南蛮寺は壊されました。1614年には徳川幕府の禁教政策が全国に及び、京都での公然とした宣教は途絶えていきました。

土の中で待った「都の聖母」

京都宣教への祈りは絶えませんでした。

1847年、フランスのサン・クロード教区ディーニャ村 (Digna) で、レオン・ロバン神父 (Léon Robin, 1802-1882) は、日本での宣教再開を願い、祈りの会を始めました。1864年には六体のブロンズ製聖母像をローマで鑄造させ、翌年、教皇ピオ9世の祝福を受けた像は「都の聖母」(Notre-Dame de Miyako) と名づけられました。



その一体は1866年、「京都を見下ろす丘に埋めてほしい」という手紙とともに横

浜へ届けられました。1873年、パリ外国宣教会のフランソワ＝ポラン・ヴィグルー神父（François-Paulin Vigroux、1842－1909）が京都へ運び、市街を見渡す東山の將軍塚に埋めました。「都の聖母」は土の中で、宣教の道が再び開かれる日を待ったのです。

困難の中の京都宣教

1873年に禁教の高札が撤去された後も、京都での宣教は容易ではありませんでした。パリ外国宣教会のエメ・ヴィリオン神父（Aimé Villion、1843－1932）は、



母国フランス出国前の
ヴィリオン神父

1868年来日し、長崎、神戸に赴任し、1879年9月、フランス語教師という名目で京都に入りました。

外国人の活動にはなお制約があり、キリスト教への警戒も残っていました。ヴィリオン神父は高倉二条の借家に語学塾と仮聖堂を設け、將軍塚から掘り出した「都の聖母」像を安置しました。警察の監視を受けながらも、また、知恩院で仏教を学び、僧侶と交流しました。京都の文化を理解し、敬意をもって福音を伝えようとしたのです。

1888年、現在の河原町教会の土地を購入し、聖堂建設が始まりました。ヴィリオン神父は完成を見ずに山口へ転任しましたが、1890年5月1日、聖フランシスコ・ザビエル教会が献堂され、「都の聖母」像も脇祭壇に安置されました。ザビエルの志は、300年以上の時を経て実を結びました。

4府県に築かれた礎

ヴィリオン神父は、長崎で、浦上四番崩れによって信徒たちが各地へ流配される苦難を目の当たりにしました。その後、神戸では、流配先からひそかに訪ねてくる信徒



ジャン＝ルイ・ルラブ
神父

Photo : I R F A / Missions
Étrangères de Paris



宮津洗者聖若翰天主堂

ヨハネ
こうして4府県に築かれた宣教拠点が、後の京都教区の礎となったのです。

このように、「仏教のローマ」と呼ばれた京都へ赴き、ザビエルの願い、「都の聖母」に託された祈り、そして明治期の宣教師たちの歩みを受け継いだのが、メリノール会の3人の若き宣教師たちでした。

今回は、この3人が日本語と日本文化を学び、新たな宣教に備えた歩みをたどります。



ザビエル天主堂献堂式
(初代河原町教会)の様子

この天主堂は、1973年に博物館明治村（愛知県犬山市）に移築され、2004年に登録有形文化財に登録されました。

お知らせ

司 教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教区・大阪高松教会管区

京都教区「いのち・平和・環境の日の集い」シンポジウム「水はつかめません～今年の水害から、いのちと地域の未来を考える」

日時：11月14日④ 13:00～16:00

場所：河原町カトリック会館地下2階大ホール

シンポジスト：大塚喜直司教・奥村豊神父（奈良ブロック担当司祭）

映画「ガザ 攻撃される医師たち」と講演会

日時：11月21日④ 13:30～16:30

場所：河原町カトリック会館地下2階大ホール

講師：原口昇平さん（詩人・翻訳者）

主催：大阪高松教会管区部落差別人権活動センター、京都教区正義と平和協議会

■教区時報1月号の原稿締切日は11月15日④

小 教 区

教会びあの♪

（ストリートピアノの教会版、カフェコーナーあり）

日時：11月8日④ 13:00～16:00

場所：丹後教会・丹後大宮礼拝堂ホール

京丹後市大宮町周枳2176-1

主催：丹後教会実行委員会

申込不要 どなたでもお越しください



諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

11月8日④ 14:00 聖歌練習

11月28日④ 17:30 練習後ミサ奉仕

場 所：河原町教会聖堂 団員募集中

問合せ：則武 隆 075-951-4283

コーロ・チェレステ（女声コーラス）

練 習：11月12日④ 10:00 26日④ 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊 新会員募集中

問合せ：駒井和子 075-561-5971

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会（聖書と典礼）

日 時：11月17日④ 13:00～15:00

場 所：河原町教会地下ヴィリオンホール

問合せ：鎌田 修 090-1967-5636

kamadaaosamu@gmail.com

心のともしび

ラジオ番組案内（全国34局で放送）

11月主テーマ「それぞれのつとめ」

KBS京都 ④～⑤ 朝5:55 ⑤ 朝5:15

ラジオ関西 ④～⑤ 朝5:00 ⑤ 朝6:05

毎日放送 ④～⑤ 朝5:45 ⑤ 朝4:55

カトリック京都働く人の家

読書会・遠藤周作「イエスの生涯」

日 時：11月8日④

九条教会9時ミサ後

場 所：九条教会内働く人の家

対象者：どなたでも

問合せ：瀧野正三郎 090-8207-1831



皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、「点訳ネット・レジナ」笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。Tel・Fax/072-722-0271

青年センター×望洋庵 一日企画 『みんなで映画を観よう！』 報告

7月11日④、青年センターと望洋庵の合同企画として、「みんなで映画を観よう！」を開催し、望洋庵にて『最強のふたり』を鑑賞しました。

映画鑑賞に先立ち、徴税人ザアカイ（ルカ19・1-10）の箇所をテーマに、イエスさまとの出会いについて分かち合いました。それぞれがさまざまな形でイエスさまと出会い、イエスさまと親しくなる中で経験した変化などを話しました。

映画鑑賞後には感想を共有し、参加者からの「こうして同じ場所に集まり、みんなで映画を観る時間を共に過ごすこと自体に意味があるんだと感じた」という声が印象的でした。また、「イエスさまに受け入れてもらったことで今後どのように前向きに人生を歩むか」を分かち合いました。



今回の集まりを通して、信仰が心の支えとなり、自信を持って積極的に人生を歩んでいく勇気を与えられた1日になりました。ご参加くださった青年の皆さん、この企画の開催にあたり支えてくださった皆さまに感謝いたします。

奈良教会 えなみかな 榎並加称

青年センターあんな